



tamakawa village history

# 玉川村の歴史

悠久のときを超えて  
今に伝わる歴史遺産の数々  
先人の想いととも次世代へ

村の西部を流れる阿武隈川。この流域には旧石器時代から奈良・平安時代にかけての生活痕跡が数多く発掘され、その出土品からこの地に根付いた人々の営みを垣間見ることが出来ます。

鎌倉時代に入ると石川地方を領有していた豪族「石川氏」の支配下となり、江戸時代には会津領や白河領、幕府領、越後高田領と領主が次々に変わり、時代の波に翻弄され続けます。

その後、明治2年から同5年までは白河県に、同5年4月からは磐前県に、同9年8月からは福島県に属するようになります。

そして明治22年、市町村制度が実施されると村の西部が泉村に、東部が須釜村となり、昭和30年、市町村合併促進法により泉村と須釜村が合併して現在の「玉川村」が誕生します。



## 川辺八幡神社の本殿【県指定重要文化財】

かわべはちまんじんじやのほんでん

起源は平安時代までさかのぼり、その後、石川氏の氏神として信仰を集めた由緒ある神社です。現在の社殿は江戸初期に建立されたもので、屋根を支える桁の彫刻などは見るものを圧倒する美しさです。



# 玉川村の歴史

tamakawa village history



## 巖峯寺の石造五輪塔【国指定重要文化財】

がんぼうじのせきぞうごりんとう

石川氏ゆかりの領主・源基光のために治承5年（1181）に建立された五輪塔。残念ながら宝珠と請花部分は失われ、現在残っているのは笠屋根と塔身、基礎のみですが、国内では3番目に古い五輪塔として知られています。



## 宮ノ前古墳【県指定史跡】

みやのまえこふん

古墳時代後期の古墳で、墳丘はすでに原形を止めていませんが、横穴式石室の一部が残っています。石室内部は極めて精巧な切石によって構成され、当時すでに権力者がいたことを物語っています。



## 東福寺の舍利石塔【国指定史跡】

とうふくじのしゃりせきとう

徳一上人ゆかりの東福寺境内にある高さ180cmの舍利石塔。宝珠と露盤を置いた屋蓋と塔身、台座からなり、扉の内部には舍利が納められています。鎌倉時代の弥勒浄土往来の思想を伝える貴重な史跡です。



あ す  
未来へつながる村づくり  
“元気”なたまかわ

第5次玉川村振興計画では  
「住民との協働による、自律の村づくり」を  
基本理念に、本村がより暮らしやすく、  
自律した村として持続的に発展できるよう、  
そしてまた村民の誰もがこの村でいきいきと生活し、  
充実感や幸福感を実感しながら暮らせる  
“元気”なたまかわを目指します。

CONCEPT  
1 | 環境にやさしく、快適で安心して暮らせる村づくり

CONCEPT  
2 | 共に支えあい、いきいき暮らせる村づくり

CONCEPT  
3 | 豊かな人間性、郷土を愛する心を育む村づくり

CONCEPT  
4 | 魅力的で活力に満ちた村づくり

CONCEPT  
5 | 時代の変化に的確に対応できる村づくり

